



リリース No.005

平成 25 年 7 月 31 日

姉妹都市 島根県松江市ウルトラマラソン交流

能登半島すずロードレース協会
すずウルトラマラソン実行委員会

石川県珠洲市と姉妹都市提携をしている島根県松江市で開催されております「えびすだいこくウルトラマラソン」に実行委員会が招待され、実行委員会メンバーおよび選手の 5 人が 5 月末に参加させていただきました。「えびすだいこくマラソン」は 20 年前から、地元の方が一生懸命、手作りで育ててきたウルトラマラソンです。今年は第 20 回、1600 人のランナーが参加いたしました。われわれ、実行委員会も大変、勉強になったと共に、本当に暖かく、そして献身的に受け入れてくれたボランティアに感銘を受け、ぜひ、この「えびすだいこくウルトラマラソン」を模範として、「能登半島すずウルトラマラソン」を育てていきたいと考えております。

そして、このたび「えびすだいこくウルトラマラソン」のスタッフ 6 名の方が本大会に参加していただくことになりました。遠く 400 キロ離れた島根県松江市の皆さまとの交流を楽しみにしております。今後ともいっそうの互いの交流を深耕していきたいと思ひます。



↑島根県トライアスロン協会 藤間会長と田中委員長



↑スタート前（美保神社）



↑勝手に私設エイドも設置しました。

＊姉妹都市：島根県松江市

「出雲国風土記」（733 年）の国引き神話の中に、神が能登半島の先端（珠洲市）から引いてきて縫い付けたのが島根県の先端（美保関町）であると書かれていたことから、1988 年 3 月に姉妹都市提携を結んでいる。美保関町の基幹産業は漁業と観光です。観光では、関の五本松や美保神社、美保関灯台が名所。2005 年 3 月に松江市、鹿島町、島根町、美保関町、八雲村、玉湯町、宍道町、八束町が合併により松江市として誕生した。





(5月28日) 島根日日新聞

過去最高 1615 人が挑戦 島根半島 100キロ走破



えびす・だいこくマラソン

美保神社(松江市美保町)から出雲大社(出雲市大社町)まで、島根半島一周の道を走破する「えびす・だいこく100kmマラソン」が二十六日に行われ、過去最高となる千六百十五人(うち県外七百七十四人)が参加した。島根県トライアスロン協会の主催で、今年で二十回目。

同マラソンは、美保一道路37号、266号、4社前の神門通りまでを神社をスタートし、国道31号を通り、出雲大走り抜くコース。島根

島根半島 100キロ走破

半島の自然や景観の素晴らしさを知ってもらおうと同協会有志が始めた。コース上の十八カ所の給水所では、地元住民がしみじみなどのサービスを行って、参加者の疲れを癒すのも特徴の一つ。

百を一人で走りぬく個人の部と、家族や仲間との絆を繋いで走破するチームの部があり、今年は個人五百三十六人、二人チーム十二人、三人チーム二十一人、四人チーム四十六組、五人チームに百六十二組が参加した。

二十回大会を記念して、美保神社から鯛と米がそれぞれ百、寄贈され、二十・百・二十・二百十位など二十に関連した順位のチームや、「大団円」などえびす・だいこくにちなんだ名字の参加者などに贈られた。また、松江市と姉妹都市協定を結んでいる石川県珠洲市からの招待参加や、ゴール地点では県立出雲商業高校の生徒によるせんさいの舞いがあるなど、例年とは異なる趣向が凝らされる。

ゴールの喜びを分かち合うチームは26日、出雲市大社町神門通り交通広場にあるゴール地点

た。

個人の部では、昨年に引き続き松江市から参加の古山史生くん(38)が7時間40分47秒で優勝。二連覇を果たした古山さんは、会社の人が仲間と一緒に走らせたおかげで、暑い中でも頑張れたと話した。

主な上位入賞者は次の通り(敬称略)。

■個人

【男子の部】①古山史生(松江市) ②野本智司(兵庫県) ③佐々木和夫(山口県) 【女子の部】①岡本恵子(兵庫県) ②松波浩美(大阪府) ③山下まゆみ(京

5/28 島根日日新聞

